

文芸

俳句

石仏貌あらわれし秋時雨 池田 逸子
 大根蒔く回る地球の片隅に 伊藤 敬子
 孫帰り忘れミニカー夕紅葉 今関満喜子
 期待せぬ嵐の後の月見かな 魚地 照子
 同窓会幼な呼び名の日短 川島 通則
 黄落の飯高壇林歩みけり 向後 寛
 心經のルビ追ふ男の子秋灯下 越川せつ子
 酔いしれて溶け行く眠り神の留守 小松 藤男
 来し方と呼んでる空の赤蜻蛉 佐瀬 輝夫
 犬の名は太郎この秋襲名す 椎名万里子
 体育祭そおれそおれと綱の息 市東富美江
 円安も不景気もなく柿たわわ 鈴木とし子
 遣すものなき半生や毛糸編む 鈴木 利子
 吐く息に立冬の来る朝仕度 土屋美枝子

翌檜の枝ゆつたりと小春かな 土屋 義昭
 画材には鶏頭がよししかも赤 早川 勇
 近道へ覚悟もとより草じらみ 藤田 雅夫

短歌

早ばやと山の傍へに沈む陽を 畑婦りの畦に見てをり 押尾 輝子
 大風の過ぎし蒨田に白鷺の 身じろぎもせず一羽たたずむ 椎名美枝子
 深まりし闇が寂しき連れくるや 静寂を破り杜鵑なく 田崎 尚美
 嵐さり玄関まへの敷石に 十三夜の月あかるく映ゆる 水須 俊
 ほおばりて食へたる母を思いつつ 剥きたる柿を仏前に供う 加瀬 弘子
 指先でまさぐりながら押すやうに 腹子の粒をほぐしゆくなり 八角 三枝
 ほの暗き廊下のすみからりりりと 涼やかな音の聞こえるなり 浅野 榮子

造花めく百日草に一本の 赤木 秀子
 ホトトギス添へ秋をいざなふ 四つ角に肩組む男女の道祖神 真似てみたしと亡夫を思ひぬ 鈴木まさ子

通院に亡夫の履きぬし革靴を 三年過ぎしも捨てられずをり 芹川 初子
 昨日より今日の紅葉の深まりて 山中湖畔秋につつまる 西山満里子
 借り物の足袋か法事を手伝へる 御寺の息子の足元を見つ 島田ますみ
 朝空を覆ふは孔雀を思はする 白き雲なり見惚れ居にけり 斎藤つね子
 ……………
 大型の台風外れて被害なく 秋空深く澄みておだやか 伊藤 定男
 千歳飴石段ごとに当て乍ら 神前にへと父母の後より 内藤 くに
 秋冷えて妻手づくりのオデンよし 熱きコンニャクからしききいて 越川 義則
 物忘れ夫とたがいに笑いをり 何時かはさびしき日の来るならむ 高梨 キヨ

作品展

- 町民会館ミニギャラリー
 - 12月 絵手紙ひかりの詩
 - 1月 水墨画クラブ
- 文化会館ロビー展
 - 12月 パンの花クラブ
 - 1月 華舟会
- サビア展
 - 12月 華舟会
 - 1月 写友会
- 銚子商工信用組合展
 - 12月 俳句会
 - 1月 横芝写真クラブ

こうほう 博物館 81

浅間神社の森

旧横芝中学校の後ろに、紅葉の季節が終わっても、緑濃いうっそうとした大木が茂る小高い山がある。
 山の頂上に浅間神社が鎮座することから、この山は「浅間神社の森」と呼ばれ、山を覆う樹木のほとんどは、樹齢数百年はあろうかと思われる椎の木で、この地域の特徴を示す極相林であるところから、町の天然記念物に指定されている。
 極相林とは、植生が移り変わっていった、最後にある樹木が茂って安定した森をいう。この地域は温帯照葉樹林帯の北辺に当たり、ブナ科の椎の木が最も多く繁茂しているところから、浅間神社の森は、椎の極相林になったと思われる。
 また、浅間神社の鎮守の森であり、神聖な樹木として守られてきたため、椎の木が切



▲浅間神社の大椎

られることなく大木として成長したのであろう。
 町内には、このほかにも町の天然記念物として、新井に大椎の木があり、里山でも大きく育った椎の木を、あちこちで見ることが出来る。長く生き、成長してきたこのような大木を守っていききたいものである。
 (社会文化課 道澤 明)